

週刊

# 愛知民報

2022年  
4月10日  
第2581号

発行所 愛知民報社

〒460-0007 名古屋市中区新栄三丁目12番25号  
愛知あかつき会館内  
☎(052) 251-2925 F A X(052) 261-6063  
定価 月 400円 郵送料 168円 1部 100円  
毎週日曜日発行(第5日曜日は休刊)  
1966年7月31日第三種郵便物認可

# すやま初美さん 参院愛知選挙区予定候補 日本共産党との出会い



支持を訴える(右から)すやま氏、しもおく氏=3日、豊橋市

## 「ブラック企業」を追及、 災害救援全力の党に信頼

日本共産党から夏の参院愛知選挙区に立候補を予定している、すやま初美同党副委員長に、同党との出会い、党の魅力や入党のエピソード、選挙必勝の決意を語ってもらいました。

しもおく 県議 とともに  
支持を訴える 全県宣伝  
キャラクターバン

私は2003年に入党しました。党創立100年の今年、入党から19年になります。子どもの頃から日

本共産党は身近な存在でした。戦争反対をつらぬいた党だということとは小学生の頃から知っていました。小・中・高校は実家の静岡県浜松市で過ごし、岡崎の愛知産業大学でデザインを学ぶため愛知に来ました。大学時代、うたごえ運動から日本民主青年同盟に加盟しました。大学で学ぶことの意義を語り合う会に参加してカルチャーショックを受けました。

『社会人として必要な知識を身につける場』と捉えていた大学が、自由な学びを追求する場所と捉え直すことができました。

◆

「もうけ最優先でないのか」。2008年、リーマンショックの「派遣切り」は、私の経済と政治の見方を大きく変えました。政府や財界が『自由な働き方』と推奨してきた派遣労働は、景気の調節弁で、企業による人生破壊の「使い捨て」だったのです。

◆

その時に、「ブラック企業」のあり方を追及する日本共産党の志位和夫委員長の国会質問を聴きました。日本共産党にたいする信頼

◆

もう一つ、私の人生に大きな影響を与えた事件は、2011年の東日本大震災の救援活動です。

◆

私は、民青同盟の間とともに、仙台南部の津波被災地に入り、被災住民の要望を聞く「御用聞き」活動に従事しました。翌年には、福島県原発事故周辺地域の復旧活動に参加しました。苦難軽減のために張りります。

今度の参院選は私の4回目の国政挑戦となります。愛知の日本共産党は、1998年参院選で比例36万票を土台に、選挙区で八田ひろ子さんの議席を得た実績があります。ただ長介参院議員・比例候補とタッグを組み、今度こそ愛知から勝ち抜くために張りります。



関西勤労者教育協会の中田進さんを招いて行った民青同盟名古屋東部地区委員会の「仲間と働き方について学ぶつどい」(前列左端がすやま初美民青同盟東部地区委員長(当時)) ※写真を一部加工してあります。

とともに、政治革新への思いを強めていきま

◆

治が発揮する力を被災地で目の当たりにし、日本共産党の専従職員として生きることになりました。

◆

今度の参院選は私の4回目の国政挑戦となります。愛知の日本共産党は、1998年参院選で比例36万票を土台に、選挙区で八田ひろ子さんの議席を得た実績があります。

◆

ただ長介参院議員・比例候補とタッグを組み、今度こそ愛知から勝ち抜くために張りります。

◆

今度の参院選は私の4回目の国政挑戦となります。愛知の日本共産党は、1998年参院選で比例36万票を土台に、選挙区で八田ひろ子さんの議席を得た実績があります。